

認知症本人の社会参加支援

本人ミーティング

認知症の本人が集い、自分の体験や希望、必要としていることを話し、自分たちのこれからのより良い暮らし、くらしやすい地域のあり方を一緒に語り合う場です。

圏域ごとに2ヶ月に1回、5～10人の認知症本人が集まり、開催しています。

支援者も参加し、認知症の本人のニーズを地域で共有することで、地域における認知症の本人の社会参加や生きがいづくりを促進します。

本人同士が出会い、一緒に語ろう！



【本人ミーティングで出た意見】

- ・ 診断を受けてから支援機関に繋がるまでに時間がかかる
- ・ 診断を受けた後の不安な気持ちを誰かに受けとめて欲しい
- ・ 認知症本人として誰かの役に立ちたい



【ピアサポート事業の開始】

本人ミーティングで出た意見を受けて、認知症本人と家族によるピアサポート事業を2021年からスタート

認知症本人の社会参加支援

○令和5年度～6年度内容

- 東部:
- ・(株)LIMNOと認知機能が低下した方も使用しやすいタブレットの製作のため、機能やデザインについての意見交換
 - ・県立図書館において貸し出し用紙、案内表示のバリアフリー化への意見交換
 - ・タクシーでのヘルプカード(認知症)の活用方法を議論
 - ・鳥取市でのヘルプカードのデザイン等への意見交換
 - ・イオンモールでの視察を通じた、バリアフリーに関する意見交換
 - ・災害避難対応について鳥取市等との意見交換



本人ミーティング(東部)
ミーティング後の交流

参考:「鳥取県高齢者の元気福祉プラン(第9期) 令和6年度～8年度」より抜粋

認知症本人の社会参加支援

中部：・市内のコンビニエンスストアで買い物を行い、本人より意見聴取を実施し、県の企業との包括連携協定に基づくスローショッピング事業へ活用

- ・認知症本人の方が一緒に食事、写真館、鳴り石の浜をお出かけし、お互いの生活およびバリアフリーへの意見交換を実施

西部：・日頃の買い物での店員、警備員等の対応を議論し、若年性認知症支援事業での個別支援へ繋げた。

- ・免許返納後の交通手段について境港市の事例を基に意見交換
- ・認知症の本人の手作りカーナー事業（「山陰ど真ん中」）の啓発活動についての意見交換



本人ミーティング（中部）
楽しい思い出語る



山陰ど真ん中（米子市）